



羽火泉
古今

俳諧百人一集

完



此亦の如く筆を以て萬変微妙なる中より風骨ハ
人の心を極むる一と云ふるも此の如く其後統不極する
あるべき所は其意を慕ふ能くあらず一白を傳へ
変あるや其極する自然に一體之自然たるや此の如く
其深き思ひ入る傳へる板書を幽心に起りたる筆を
いと之の如く其法を以て其人と巧子を以て下り筆を
後を畫たる如き其意を極する其後統不極する一周
其のハ排諧の身で極は相輔する其後統不極する其意を
と云はるる其意の目書を法は其法を以て其意を巧
其法を以て其意の目書を法は其法を以て其意を巧
其の身一と云ふるも其意の目書を法は其法を以て其意を巧
其の身一と云ふるも其意の目書を法は其法を以て其意を巧

一のの歌のゆきを担箱を運ぶの風骨を述べては
 ように飛龍の輪を履きしは幾のふ志のゆき月のみ
 此高極を花頭子信を甘所の吉人より連て正白を
 奉けしと今人白もも携ひて遊平而又一筆
 多き程に永く平風の月を慕ふ人ともあり吉龍の
 序を結中此書おもしろきと云はしはしあふりて
 かり此舞のあまもたかしくは色の一語を述べて毫を執
 るは永交吉のやうに一室のて月ありやあ



雲社

芭蕉翁

三株

三月

常盤

月の山



時

申

抄

人

影

童



性

若

方

草

小

公



坊主
子也

阿比海

音

歌

まの巻

不玉



い
け
う

後
社

付

た
家

まの巻

呂
丸



夕
階
白

時
急

如
風
乃
走
走
走



卷
七

所
以
節

石
之
好

聲
能
啼

初
行
力

會
覺



きり

はら

え

あき

あき

あき



山

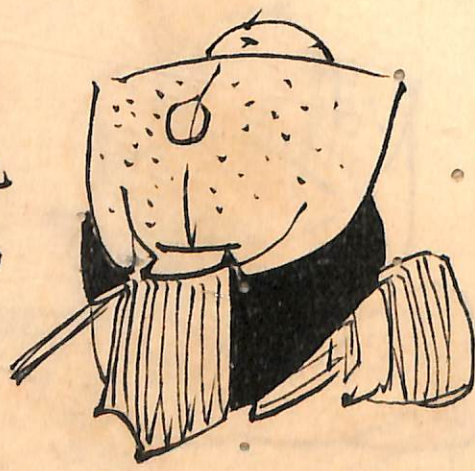
あき

あき

あき

あき

あき



葺かり

也

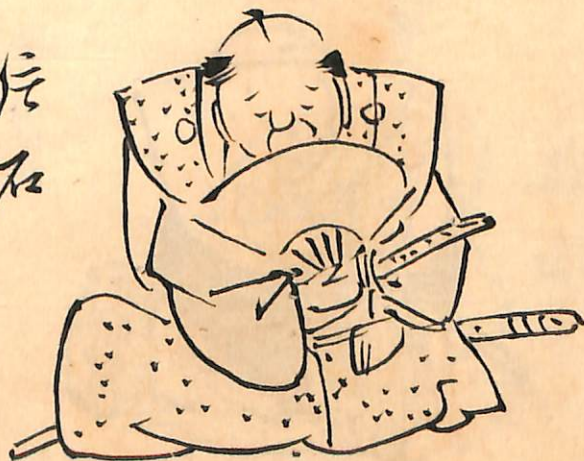
家あり

三好社

言

謝

后石



香社

何手

味

幸

遊

木河

吳天



謝極也

三才

嘉乃

行々

も北をくつ京

若誰



山依也

貝

物起

多々

秋能く礼

李夕



手分る

伏田

能

うへ也

かまのまじ



白之

引水

乃

岸了

海也

いりき川海多

きん女

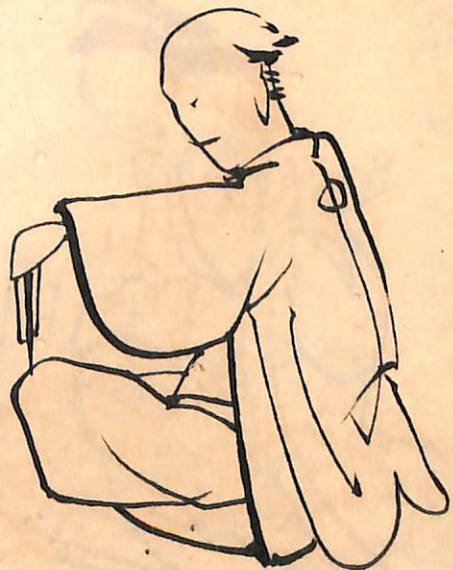


疏之先也

語之

之也

巨憊之也



魯子

志之柔

也

夫也

若也

於安也

田菴



淋

子

常小

己

可

山

斗昔



一

巧

若

壹

形

子

印



五月廿八

二

三

不二

川

天井川

貞吉



暖の家

白子

〆

〆

梅市

梅市



あしひ
ひ
あしひ
あしひ



あしひ

あしひ
あしひ
あしひ
あしひ



あしひ

高
 松花
 落
 解乃壳



始久

歌元
 有
 直



文化

有世
月結
薄
去年
招つて



秋潮

春
山
之
年
月
一
日



文二

卷之

中

三

三

月

三



学

乃

乃

中

乃

美



子年

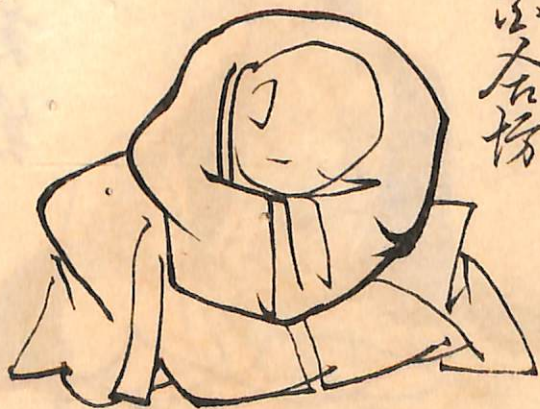
のちのち

夕日紅

いよわ

よゝちゝか

正右衛門



正右衛門

新久

子年

子年

いよわ

よゝちゝか

子年



子年

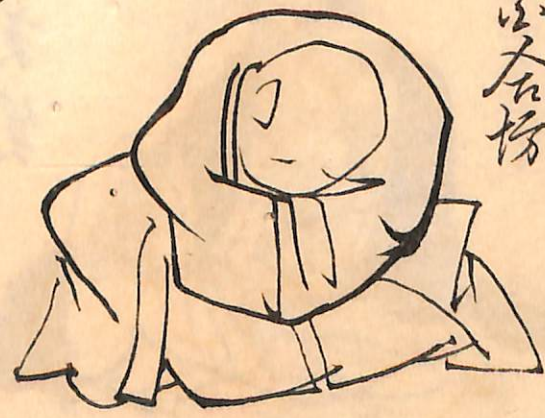
のちのち

夕日紅

いづれ

よきことあり

至右坊



斜久良

よりのち

子年

いづれ

よりのち

子文



あつた

懐

あつた

乃

あつた

あつた

森



森

あつた

あつた

あつた

あつた

二月

記



くしのき

かき

かき

かき

かき



長環

かき

かき

かき

かき



かき

惡猫也

出仕

喜

路

林三申



保泉

林三申

原松

物什

鶏

松子也

手束棚

持系



大本平

志

出

如

解

自書



重

乃

一

可

和



大本

志

出

也

解

自書



而

乃

之

一

和



隣りも

世新

割る

おやあ

おのり

お素



七

本は

錦中

松の

あし

一の帯



七

一斗

酒

手

石

子

文明



老翁

三

水

水

水



高任好
 踏
 子
 山
 山
 山



登
 登

子
 子
 子
 子
 子



川
 川

一 家 也

五 十 一

解 象

上 卷 一 〇 五

山 園 里



三

百 元 七 十 五

廣 之 也

茶 子 付

張 能 考

嵐 二



初出
 古撰
 人年
 卷之
 一
 一
 一



文潮

夕顔能
 卷之
 安し
 一
 一
 一



琴而

鴉

二羽

一味堂

冬

冬

冬



冬川

冬

冬

冬

冬

冬



行

層に

舟

い

三

案山子哉

蘭明



蘭明

白く様乃

赤く先

松子

水

と



水

局、河、々

蝶、能

扇、也

波、の上

文、都



梁、能、平、也

皆、能、交

者、の、也

日、の、字

若、語



二三天
 海龍其
 子
 答いぬ



文龜

少所
 子
 子
 子
 子



卜栴

魂
さ
ま

年

孤
独

子
の

宿
り
の
家

五
狂



子
良
能

活
か
す

向
き

面
影
の
如

潮
路



ふし田結

辛

若古木

崖一石

月昂



以物象

子古風

古中く

子古

磯子古の古

花笠



夜安

や

花の

まふ

深き

免存



お

あ

去

人形

表の

月





女玉粧

女玉粧

女玉粧

女玉粧

女玉粧

女玉粧



男玉粧

男玉粧

男玉粧

男玉粧

男玉粧

不二

無

い海

出

願之

冬紅月

麦波



学能くけ

深也

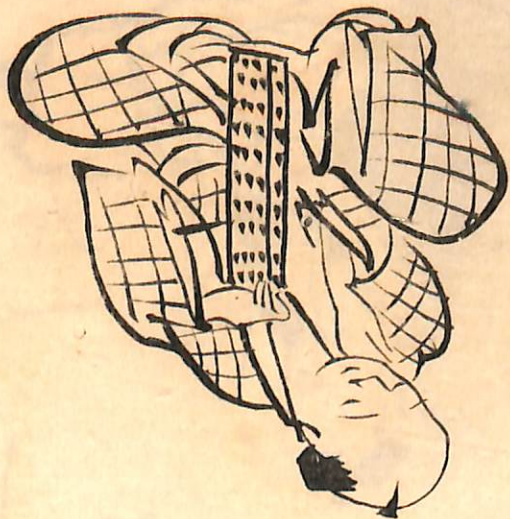
明らる

也

まはりの

左釋





二女

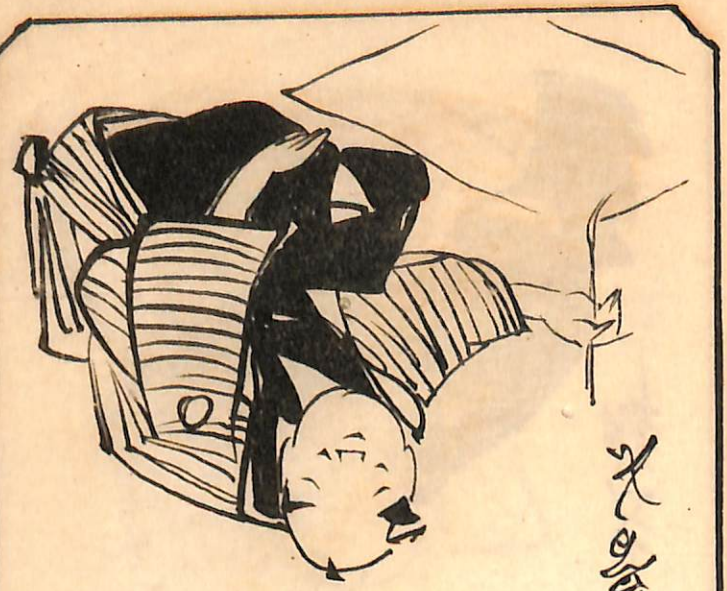
歌、心

如

下

三

子



水

歌

子

心

如

下

子月

子月

子月

子月

子月

桂仙



桂

子月

子月

子月

子月

子月

子月

一弘



桂

X
円)
最
然
な
サ
ん
ま

三



如東

机

月

月

月

机



如東

機

月

月

月

机



花
環

下
環

し
り
り

し
り
り

し
り
り

し
り
り

し
り
り

5円)

、最
自然
利な
たサ
ゃん
てま

唐書

也

明可

言
燒
錄

言
燒
錄

洪竹



完牙

一白

好

出牙

白

唐書

唐書





お目

お目

お目

お目

お目

お目



お目

お目

お目

お目

お目

お目

五字結

巾也

そ

加勢

通り白

両名



其

稽けん

ふハ

うき
也

ゆり
熟

帰
心



85円)
之、最
が自然
便利な
えたサ
ちゃん
いてま

5-X



おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり



おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

85円)

と、最
が自然
便利な
えたサ
ちゃん
いてま

ふらふら

拾ふ

又

ふら

ふら



ふら

月の

ふら

横

ふら

ふら

ふら



美
 のり
 のり
 のり
 のり



五水

新
 矢
 移
 行



廿原

席杖也
初坐
乃
了に
是神家



水

落
か
解
遠
桂
の
如



一册

後之志也

子能

初

又

乃社乃利



文財

名曰曰

水能

以能

為可

昔成田



証字

本江

枝を

ゆき

外き

鳥交

守雄



石花

乃

中

伴

た

巖

遊



手送り
丹

火の味

能

石く

丹渡り

真掉



三不

月能

孝の能

女
母

小急

不濁



刈

いのち

四五白

あひ

山能箱

徳成



了

五

寺

す

梅

法着



高

下

中

上

下

出

羽泉



下

上

中

山

深

鶴



ふのふ

ま

楽

あ

の

まの
糖

古梅



空

し

く

白

あ

年
月
の
糖

表年



抄
子

之朝ハ

二本

事

山

洪



芭蕉翁

重行

長山小路長山五郎左衛門
芭蕉翁友人

公羽

岸本八郎兵衛長山小路
重行ノ隣家

不玉

酒田伊藤玄順號淵庵

呂丸

羽黒山圖司左吉
芭蕉翁門人

會覺

羽黒山別當はせを翁
遊杖ノ時人

嵐七

荒町深澤與兵衛
支考門人

風草

三日町林宗彌支考門
號一株林

兆而

三日町川上四郎右衛門
號其故園

片石

江戸御屋敷上野平格

吳天

七日町近江屋八右衛門

芦錐

佐藤六郎兵衛ノ二男、後酒田養子
トナリ大泉長次郎

李夕

舞台大庄屋佐川勘藏

白之

三日町平田太郎右衛門

さん女

深澤與兵衛妻

魯子

天神町長澤源四郎

田龍

荒町小野田吉右衛門

斗昔

深澤與兵衛

荷葉 御染屋八右衛門

貞吾 東島神尾喜藏

梅市 三日町國松市右衛門

杜考 三日町芳賀甚右衛門

荷曉 新町齋藤德兵衛
號素涼庵ト

文化 三日町川上四郎右衛門
兆而ノ子

怡夕 島鷺田長五郎

文二 地主長右衛門號松童窟
陽秋亭

秋潮 松平甚三郎久駿

ちよの女 白井彌太郎妻

英笑 長澤太次兵衛號念佛庵

百合坊 酒田武永五右衛門入道

草父 松山田中太郎兵衛

桃序 番田石塚與兵衛

汎兮 三日町相馬主仙

長翠 下總ノ人、春秋庵白雄高弟第二世
春秋庵又小養庵文化年中酒田ニ
没、正風大家

よし雄女 長翠ノ娘

保泉 銀町山田半藏

柳糸 酒田佐藤清三郎

自香 龍覺寺方丈

和太理 御持筒町本間亘理

太素 羽黒山聖ノ院

可常 一日市町船田庄治
奈良茶庵

文明 三日町平田太郎右衛門
曙庵

如流 新士町佐藤和惣

川路 江戸御屋敷中村此右衛門

琴雅 中道大瀧辰治

蘭里 荒町眞島藤右衛門

嵐二 深澤甚助

琴而 新町齋藤德兵衛
號玄々堂

文潮 三日町鈴木佐次兵衛

一味堂 羽黒山別當

翠古 羽黒天羽又兵衛

蘭明 加茂

如舟 荒町深澤與兵衛

文都 最上町藤島四郎兵衛
文都トアレトモ文郁也

共話 新町染屋清助

卜柳 南町兼子儀右衛門
號鶴南舍

文龜 天神町萬年庄吉

五狂 八間町前田立元
號一笑庵

潮路 三日町鈴木佐次平幼名定
五郎、號雨柳庵

月昂 荒町伊藤七右衛門

花笠 酒田伊藤四郎右衛門

兎鳥伍 南町伊藤五右衛門
號情々庵

月巢 田谷村渡部作左衛門

伯鸞 荒町竹野治郎兵衛

梅里女 藤島大庄屋尾形八郎治妻

麥波 羽黒太田外記

左靜 酒田柿崎孫兵衛

魯長 酒田富樫長左衛門

介二 酒田鈴木太助

桂仙 酒田富樫權助

一弘 酒田玉屋久右衛門

東臯 酒田大阪屋利助

甫竹 松山齋藤彌右衛門

淇竹 松山齋藤

鶴昇 月巢ノ子
渡部作左衛門

柳眉 清川齋藤治兵衛後雷山
號樂水樓

梅芳 濱温海本間吉兵衛

雨石 石井庄兵衛

歸鄉 中村此右衛門

素山 本間直記

岱草 小池密右衛門

さき女 弭間貞治娘

喜久女 田林半九郎妻
通名お菊八十三卒

其原 鈴木源右衛門

米水 五日町佐藤新治郎
號花中庵

一艸 下看町大八木惣右衛門

多水 小野吉右衛門

文草 田林榮太郎
喜久女弟

似草 十日町佐藤伊之助

守雄 荒町八木屋茂三郎

淡遊 弭間貞治號合漢舍

蓬兮

眞棹 鳳音坊

不濁 三日町小池仲郁

岱曉 長山要輔

澤青 荒町小野田伴治

羽泉 駒林和一郎

鶴堂 本間正記

古梅 弭間茂右衛門

麥年 荒町眞島末家松屋傳右衛門後麥浦號若翠堂



昭和十年十月十七日印刷
昭和十年十月廿五日發行 (實費金七拾錢)

編輯兼 發行所 莊內史料研究會

代表者 助川正誠

印刷所 大瀧印刷所

印刷人 大瀧德藏

印刷所 大瀧印刷所

電話一六五番

淡遊
弭間貞治號合漢舍

